

社会福祉法人晋栄福祉会 特別養護老人ホーム 灘六甲ちどり

つながりを感じられる施設に



特別養護老人ホーム 灘六甲ちどり

施設長 野々村祐一さん 介護福祉士 原武 孝さん

神戸、六甲山のふもとに5年前に開設された特別養護老人ホームが今年5月、運営が社会福祉法人晋栄福祉会（大阪府門真市）に移譲され、「灘六甲ちどり」としてリニューアルオープンした。新たな理念のもとに再スタートする施設を訪ね、今後どのような取り組みをしているのかをうかがった。（文／写真 和田依子）

穏やかに安心して過ごせる環境

灘六甲ちどりは、六甲山のふもとに建つ定員60名、全室個室のユニット型特別養護老人ホームだ。4階建ての館内にはホテルライクな心地よい空間が広がっている。

周囲は緑豊かで閑静な住宅地。徒歩圏内に神戸大学のキャンパスがある文教地区で、阪急電車や JR にアクセスするバス停まで徒歩3分という便利さと、静かさを兼ね備えた環境にある。

施設長に就任したのは野々村祐一さん。「介護は人のためになる仕事で、なおかつ自分で創意工夫ができるのが魅力です」とこれまでの仕事を振り返った。野々村さんは平成19（2007）年、晋栄福祉会に入職し、法人が宝塚市内で運営する特養「宝塚ちどり」で4年間勤務。その後、近隣で開所したばかりの特養「中山ちどり」に異動し、以来同施設で14年間

野々村施設長(左)と
原武さん

にわたり、介護、相談、グループホーム、居宅

介護、通所介護、訪問介護の管理者などさまざまな現場で経験を積んだ。人材育成に力を入れようと、法人で初めて介護福祉士実務者研修を立ち上げたこともある。これまでの実績を灘六甲ちどりどのように活かしていくのだろうか。

ご利用者のつながりを取り戻す

「ご利用者が家族や社会とつながりを持ち続けられるようにします」と野々村さんは話す。

最初に改めたのは、家族との面会に関する規則だ。それまでは面会時間や訪問できる人数などに多くの制限があったが、事前連絡さえあれば、日中であればいつでも面会ができるようにした。

また、ケアプランを決定する「サービ



ス担当者会議」のあり方を変えた。それまではスタッフ間だけでケアの方針を決めていたが、会議に家族も招くようにした。家族を巻き込むことで、利用者、家族、職員の間で信頼関係が生まれることをめざした。これまで相談員やケアマネを通じて行っていた家族への連絡は、ユニット担当者が直接行うようにし、ふだん利用者と関わる職員と家族がコミュニケーションを取れる機会を増やした。

さらに外とのつながりも重視し、「ご利用者にもっとアクティブになっていただきたい」と野々村さん。今後はレクリエーションの充実を図る。館内で貼り絵などの創作活動や体操の機会を増やし、外出レクリエーション（外出レク）も取り入れるという。

「太陽の光が気持ちいい」。外出レクで笑顔に

取材に訪れたのは、施設運営が新体制になってひと半月経過した梅雨晴れの日。この日は初めての外出レクが行われていた。70代のご利用者、松田遵子さんが職員の付き添いのもと、施設から車で15分ほどのところにある回転寿司にランチに出かけた。行き先は「ふだん施設では出ない食事がいいのでは？」と職員らが提案した。

外出レクを担当したのは、職員の原武孝さん。以前からこの施設で働いていて、晋栄福祉会に運営移行後も施設に残ることを決めたスタッフのひとりだ。

原武さんは大学卒業後、知的障害者の施設で生活介護の支援員として5年勤務後、高齢者介護に転身した。「テレビのリモコンを操作する程度のお手伝いにも、『ありがとう』と感謝されたことがうれしかった」と話す。以来13年間、介護の世界でキャリアを積んだ。これまで利用者から昔の思い出話を積極的に聞くことでコミュニケーションをはかってきた。神戸大空襲など、自分が知らなかった街の歴史を教わったこともいい思い出だという。

ところで、初めての外出レクはどうだったのか。

「タッチパネルで注文のお手伝いをしました。お寿司を召し上がりながら、昔、ご家族で行った外食の話もしてくださいました」と原武さん。

外出レクをした本人、松田さんにも話をうかがった。

「太陽の光を直接浴びて、本当に気持ちよかった！ 至れり尽くせりしてもらい、最後に抹茶パフェまで食べられて楽しかった」とのこと。

これまでは外出というと、定期的な通院時がほとんど。太陽の光はいつも窓越し。そんな松田さんが見せた満面の笑みと弾む声が印象に残った。

その人らしさを重視した介護を

原武さんは先月、晋栄福祉会の仲間になったばかり。「ご利用者のために何かできないかと常に考える」という法人の方針に共感したという。そして、「外食レクに限らず、外に出る機会を増やしたいですね。外は苦手という方もおられるかもしれませんが、選択肢がひとつ増えることが、ご利用者にとって大事なことのかなと思います」と抱負を語った。

野々村さんは、「これからも立ち止まらずに、とにかくいろいろな取り組みをしたい」と語った。3日後には野々村さん肝いりの「ユマニチュードケア＊についての研修」が予定されていた。ユマニチュードとはフランス語で「人間らしさ」の意味。『ケアが必要な人をひとりの人間として尊重し、コミュニケーションを取りながらケアする』という理念はユニットケアの教科書的な考え方です。それをあらためて確認し、具体的な接遇の技術を共有する研修になるそう。新しい体制と意欲的な取り組みで、施設が動き出そうとしていた。



外出の様子を話す松田さん(左)

＊ユマニチュード…1979年にフランスのイヴ・ジネスト氏とロゼット・マレスコッティ氏によって創出された認知症ケアの技法のひとつ。日本はじめ先進各国の医療機関や介護施設で取り入れられている。



灘六甲ちどり開設までの経緯

令和6（2024）年11月、神戸市は国有地を活用した介護保険施設である「陽だまりの家きしろ」の運営を引き継ぐ事業者を募集し、晋栄福祉会がこれに応募した。応募にあたり、同法人は2つのビジョンを示した。

ひとつは「つながりの重視」。利用者が自宅や社会とつながりを持つ機会を増やすサービスを提供することである。もうひとつは「地域の課題に向き合うこと」。高齢化率が高い鶴甲地区の介護サービスの質を向上し、地域の人々の選択肢を広げることとした。

神戸市は同年12月、これらの内容と、同法人が垂水区で運営している「神戸垂水ちどり」での実績を評価し、晋栄福祉会を事業継承者として選出。以後、旧法人からの引継ぎを経て、令和7（2025）年5月1日の開設に至った。



灘六甲ちどり 神戸大学第一キャンパス東
阪急・JR各線からアクセス可！

介護職員（正職員・非常勤）募集中!!

お申し込み、お問い合わせは、以下までお気軽にご連絡下さい

〒657-0011 兵庫県神戸市灘区鶴甲1丁目4番21号

TEL: 078-862-6865

FAX: 078-862-6866

アクセス

阪急神戸線『六甲』駅より
神戸市バス16系統に乗車、
『鶴甲南』下車徒歩5分

申し込み

上記お電話、又はHPより
https://www.chidori.or.jp

晋栄福祉会 職員募集

詳細は晋栄福祉会ホームページへ！

しんえいふくしかい

↑1.入力して

↑2.クリック

https://www.chidori.or.jp/



募集職種：介護職員（生活相談員候補含む）・看護職員・保育士
雇用形態：正職員・非常勤（応相談）
採用施設：晋栄福祉会 介護・保育各施設（大阪エリア、兵庫・神戸エリア、奈良エリア）

休日：年間休日110日（2024（令和6）年4月1日施行）
年次有給休暇10日（初年度）、育児休暇、介護休暇、リフレッシュ休暇（勤続10年）、プリセット休暇（3～5日の連続休暇）

昇給：年1回

賞与：年3回4.2か月※令和6（2024）年度実績

実務各種手当：夜勤手当・資格手当・業務手当・住宅手当・交通費

保険：健康・労災・雇用・厚生年金保険

福利厚生：退職金制度・育児休暇制度・研修旅行

教育制度：内定者研修・新人研修・中堅職員研修・法人実践研究発表大会、施設内にある研修委員会の年間計画に沿って実施、外部研修参加制度・資格取得推奨制度あり